

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0390100055
法人名	流通商事株式会社
事業所名	グループホーム ゆうゆう黒川
所在地	〒020-0402 岩手県盛岡市黒川7地割37番地8 (電話)019-675-1001

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成21年2月19日

## 【情報提供票より】(平成20年10月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 1 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費等15,100円	
敷金	無		理美容代等実費	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	990 円		

### (4) 利用者の概要(10月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82.8 歳	最低	76 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	川久保病院・八木クリニック・星と虹歯科クリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅地にあり、道路を挟んで近くに果樹園や畑なども見られる。民家を改造した建物は、一般的な家庭の雰囲気を感じられるが、建物の内部は、幅の広い階段は緩やかな傾斜となっており、さらに、昇降階段を設置したり全室床暖房を設備するなど、高齢者の生活への配慮がなされている。利用者と職員は日頃の散歩や挨拶、また町内会活動への参加等を通して、地元の人々と積極的に交流している。ホームでの支援については、利用者一人ひとりが自分らしさを活かしながら、自分のペースで生活することを目指している。また、日頃の健康管理については利用者や家族の希望に応じて、医療との連携に努めながら取り組みを行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で明らかになった課題については、話し合いを行いながら具体的な改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に基づいて課題の改善のための取り組みを行っている。全職員が評価に取り組み、話し合いを行う中で、現状認識や取り組みの状況に対する評価について職員間に差があることに気づき、改めて「利用者の思いを支える」という共通の視点の重要性を再認識している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の生活状況や要望・希望、苦情、事故などについて報告することにより、ホームへの理解を得ている。会議の中では、地域行事への参加や防災訓練などによる地域交流についての話し合いが行われ、相互の連携強化に役立てられている。また、意見交換の中で明らかになった課題や、改善のための意見を参考にしながらサービス向上のために活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居の時点で、家族の意見や要望を十分に確認するとともに、利用者の暮らしぶりや健康状態の報告を定期的に行っている。利用者に体調の変化が見られたような場合は即座に、家族と連絡を取り合い必要な対応を行っている。日頃から家族及び利用者の意見、不満、苦情等を良く聞き、適切に対応することを心がけるとともに、運営推進会議で出された家族の意見を施設の運営に反映することができる体制となっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、回覧板まわし、総会や夏祭り、地域の草取り等の地域活動に参加しながら近隣の人々との交流を深めている。ホームの職員は地元の人々と積極的に交流し、ホームへの理解を深められるよう努め、利用者が近隣の人々と気軽に日常的なコミュニケーションをとることが出来る支援を目指している。また、地域住民による防災訓練への協力等も見られ、相互の連携強化に取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの「馴染みとこだわり」「楽しみや喜び」を重視するとともに、その人の生活を大切にしながら、地域の中で暮らすを支えていくことを理念として掲げている。利用者の意見を尊重した上で地域との関係づくりを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で話し合いを行いながら、地域密着型サービスの理念を共有して実践することを目指している。また、管理者は、日々の実践の中で様々な機会を活用し、理念への理解を深めるための取り組みを進めている。	○	計画的に全職員を対象とする内部研修を行い、理念の「共有」と見直しへの取り組みにより、一層の成果を上げることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入しており、回覧板まわし、総会や夏祭り、地域の草取り等の活動へ参加等を行うなかで、地元の人々との交流に努めている。職員は地域の人々と積極的に交流する中でホームへの理解を深めることを目指している。また、地域の住民からは避難訓練などでの支援を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する意義を理解した上で、全職員が自己評価に取り組んでいる。その結果「利用者の思いを支えていく」という思いを新たにするとともに、自己評価で気付いた点を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催しており、会議の委員は利用者、家族、地域住民、包括支援センター職員等で構成されている。会議では、利用者サービスの状況、苦情や事故の状況等を報告すると共に、意見交換を行い、そこで出された意見を参考にしてサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターが定期的開催するサービス部会(地域の介護事業所の会議)の場で定期的に情報交換を行っている。また、運営推進会議にも地域包括支援センターの職員が参加しており、行政とのパイプ役を果たしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の体調の変化が見られたような場合は、家族と電話等でその都度連絡を取り合っている。それ以外にはホームでの医療機関への受診状況、訪問看護による健康管理の状況等について月に1回報告を行っている。	○	預かり金の管理はホームでは行っていないとのことであるが、将来利用者の所持金の管理をサポートしなければならない状況が生じる可能性もあるので、早めに預かり金管理に関する内部規定について検討されることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の時点で、利用者及び家族の意見を聞きながら対応するとともに、運営推進会議には家族と利用者が委員として参加しており、そこで出された意見や要望をホームの運営と介護サービスの質の向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現時点では法人内での職員の異動は考えていないとのことである。今後、異動や離職が生じた場合、利用者が不安を感じる事が無いように、事前に利用者に対する情報提供や支援を行うとともに、家族に対しても、事前に連絡を取ることを考えている。	○	将来、異動等が発生した場合、利用者が馴染みの管理者や職員から適切な支援を受けることにより、精神的なダメージを防ぐような取り組みを期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の研修や県主催の研修会には職員が交代で参加している。また、ミーティングの場を活用した技術的な指導や、日常業務の中で職員の専門性向上のためのスーパービジョンに取り組んでいる。	○	効果的な職員研修の成果をあげるために職員育成するための年間計画をたて、内部研修のシステムを確立するとともに、積極的に外部研修を受ける機会を確保することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し県・ブロックの定例会には必ず参加し、相互の交流と利用者サービスのあり方や地域ケアの状況等についての情報交換を行っている。他の事業所との職員交換研修の実施については、検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を決定する前に、職員が必ず自宅などを訪問して利用者と家族への事前説明を行っている。サービス開始時には、利用者が馴染めるような雰囲気を作るため、利用者が使っていた家具をホームでも使えるように支援している。また、早く施設の雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員がともに支え合い過ごす家族としての関係を築いている。食事の準備では、職員が利用者から料理の作り方を教わり、作る喜びを分かち合い、共に支え合ったり学び合ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の時点で、利用者や家族からの情報により生活歴や習慣を確認するとともに、センター方式のアセスメントを活用しながら、利用者の希望や意向を把握し、その思いに添いながら生活の支援を行うことを目指している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間で利用者の思いやケアの目標を共有するための話し合いを行うとともに、利用者がより良く暮らすためのケアのあり方について、本人、家族、医療機関の関係者及び施設の職員が話し合いを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式の「五つの視点」を活用しながらケア計画を作成し、支援を行っている。また、職員が日々の取り組みのなかで、利用者の生活状況の変化や心身の状態の変化への対応を行っている。	○	利用者の現状に即した支援を行っているが、計画の見直しには至っていないとのことであり、心身の状態等に変化が見られた場合は、利用者や家族とも話し合いながら、現状に即した計画の作成に努めることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の相談を受けながら、希望に応じて、病院の受診や訪問歯科の利用など、日常の健康管理や医療連携の体制の支援により、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的に協力病院との医療連携を行うと共に、入居の時点でかかりつけ医を確認し、利用者及び家族等の希望に基づいて、かかりつけ医についても継続して受診出来るように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けた対応については、医療連携体制に関する指針に基づいて職員研修を行い、方針の共有に努めている。また、入居の時点で、本人・家族にも方針を説明し、本人・家族の希望を重視した対応を行うこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーの尊重を心懸け、排便ケアなども利用者本人の意思を尊重しながら支援している。また職員の守秘義務に関するルールを徹底しながら、記録等の個人情報管理を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの思いやその人らしさを活かし、自分のペースで生活を送ることができるように、声かけ、日常生活の支援、見守り等を行っている。また、外出や買い物等についても、利用者の希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の変化に合わせて、様々な食材を取り入れるとともに、ソバやうどん、卵焼きなど好きな料理を利用者に選んでもらったり、職員と一緒に作ったりしながら、食事を楽しむことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により日曜日の入浴もでき、ほぼ毎日入浴ができるよう支援している。入浴時間についても利用者が自由に選択することができる。また、入浴のマニュアルを整備し、希望のお湯の温度にも配慮しながら気持ち良く入浴を楽しんでいただくよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができるだけ自由に日々を過ごせるように、利用者の希望を把握し、支援することに努めている。また、利用者の希望や生活歴等に配慮し、お茶の支度や、食事の準備や片づけ、買い物などの役割により、生活に張りを持つことができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常において外出したい方がいれば「いってらっしゃい」と声かけをして、気軽に外出できるよう雰囲気づくりに心掛けている。また、買い物のための外出や、お花見や紅葉狩りなどドライブによる外出の支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず自由に入出りできるようになっており、玄関にベルを付けて出入りの確認と利用者の見守りを行っている。ただし、夜の8時から朝の6時までは、安全のために、玄関の施錠を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々の協力を得て年に2回の避難訓練を実施している。火災や地震等の災害時の対応のためのマニュアルを作成し、緊急時の連絡・通報の方法や集合の方法等について定め、職員間で確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事の状況や栄養摂取状況を記録により確認しながら、状態に合わせて適切な栄養バランスをとることができるように支援をしている。	○	栄養士による定期的な栄養バランスチェックについての取り組みを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは民家を改造した造りとなっており、自然な生活感が感じられる。共用空間にはソファ、テーブル、テレビ等が配置され、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で過ごせるよう工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や身の回り品など、利用者の思い出ある使い慣れた物が持ち込まれており、利用者が安心して過ごせるように支援している。また、家族とも相談しながら、写真などにより、その人らしい居室づくりが試みられている。		